

新たな時代を迎えた自動車の電動化 —電動化の自動車メーカーへの影響と戦い方の変化—

小澤 郁夫

目 次

1. はじめに
2. 自動車電動化の進展
3. 2030年電動車年間販売台数予測
4. 完成車メーカーへの影響と戦い方の変化
5. 部品サプライヤーへの影響と戦い方の変化
6. 終わりに

自動車の電動化は、不可逆的な流れとみる。みずほ銀行産業調査部独自モデルに基づく予測では、2030年の主要5地域における電動車の年間販売台数は25.8百万台、うちハイブリッド車が6.6百万台、プラグインハイブリッド車が6.3百万台、電気自動車が12.9百万台を見込む。完成車メーカーは、市場が拡大する電動車では従来と異なる新たなクルマづくりが、市場が縮小するエンジン車では既存戦略の大胆な見直しが求められ、陣営化及び事業の選択と集中による経営リソースの再配分が必要となる。自動車部品サプライヤーは、電動車部品では先行開発及び投資に耐え得る体制を、エンジン車部品では残存者利益を享受し得る体制を構築することが求められ、規模拡大と効率性向上が競争を勝ち抜く手段となる。

1. はじめに

自動車産業は、電動化、情報化、知能化並びに自動車を活用したサービスの勃興という四つの大きな変化に直面している。ドイツ・Daimlerは、これらをCASE (Connected、Autonomous、Sharing&Services、Electric) と称し、「CASEはその一つ一つが自動車産業全体を覆す程の力を有する。ただし、これらが包括的な一貫したパッケージに統合されると、真の革命に至る」と述べている。

ている。

本稿では、自動車産業が直面する四つの大きな変化の中でも、最も早期に産業全体に大きな影響を及ぼすと考えられる電動化を採り上げる。

2. 自動車電動化の進展

(1) 電動車の類型

電動車は、ハイブリッド車 (HEV)、プラグインハイブリッド車 (PHEV)、電気自動車 (EV)、



小澤 郁夫 (おざわ いくお)

みずほ銀行産業調査部参事役。2001年3月、上智大学法学部法律学科卒業。同年4月、みずほ銀行入社。同行恵比寿支店、同行飯田橋支店、みずほフィナンシャルグループIR部、みずほコーポレート銀行 (現在のみずほ銀行) 営業第十三部を経て、16年8月より現職。